



南部町立南部中学校 学校だより 第3号

千一ム南部中

令和元年 5月9日(木)

校長 望月和彦

平和の尊さ、我が国の歴史と文化を体感した3泊4日

4月23日(火)から26日(金)は、3年生56名にとって待ちに待った修学旅行でした。中学校生活最大の行事である修学旅行のために、生徒たちは、2年生の時から総合的な学習の時間を中心にして、様々な準備や取り組みを行ってきました。実行委員会を組織し、スローガンや目標を決め、修学旅行中の決まりを話し合ったり、係ごとに修学旅行を充実させ快適にするための仕事内容や予定をつくったり、様々な儀式や学習の準備をしたり、何よりも広島や奈良・京都の見学地の事前学習やコースづくりには特に時間をかけて取り組んできました。私はその取り組みの様子を直接見ていませんが、修学旅行のしおりのきめ細かな内容や当日の生徒たちの行動から、どれだけ時間をかけて取り組んできたか容易に想像できました。一緒に同行させてもらった私の目から見た修学旅行の一部を次に紹介します。

23日の朝6時、道の駅とみざわには56名全員がそろい、家族や先生方に見送られながら元気に出発することができました。峡南地域でインフルエンザが広がっていたので心配していましたが、全員で行けたことは本当に良かったです。途中、名古屋駅での新幹線の乗り換えは、4分間で降車と乗車を済ませなければならず心配していましたが、乗車訓練の成果でスムーズに乗り換えができました。広島では、名物のお好み焼きをみんなで食べ、宮島で平家ゆかりの厳島神社を見学して、広島平和記念公園に入りました。原爆ドームをバックに記念写真を撮ったあと、原爆の子の像の前で「献鶴式」を行いました。事前学習で学んだ佐々木貞子さんを偲びながら、柿島実行委員長が「戦争の犠牲になられた多くの人たちの苦しみや悲しみを忘れません。話し合いを大切にして、戦争のない世界を目指します。」と平和の誓いを述べました。私の心に一番残っていることは、3年生が原爆の子の像の前で合唱した「ねがい」です。自分たちでつくった詩には、戦争のない世界を目指し、平和を大切にしたいという気持ちが込められており、南部中学校の3年生と先生たちの美しいハーモニーが響いていました。近くにいた観光客は足を止めて合唱を聴いてくれていたり、外国人の何人かはビデオで撮影してくれていたりしました。平和記念資料館はリニューアル工事のために一部しか見学できませんでしたが、展示物を前にしてじっとたたずんで見ている生徒の姿が印象的でした。広島の宿舎では、生徒たちにとって特に大切な時間がありました。細川浩史さんによる被爆体験講話です。細川さんはドキュメンタリー「夏服の少女たち」のもとになった日記の作者森脇瑤子さんのお兄さんです。3年生は平和学習として「夏服の少女たち」を学んでおり、細川さんからお話が聞けることをとても楽しみにしていました。



細川さんは91歳のご高齢にもかかわらず、戦争中の世の中の様子や原爆が投下された時のこと、直後の広島の様子、そして亡くなった妹の瑤子さんのことを淡々と、そしてなぜ体験を話そうと思ったのかを丁寧に生徒たちに語ってくれました。原爆や戦争の恐ろしさは、本やインターネットでもたくさん学べます。しかし、実際に原爆の威力を肌で感じ、その恐ろしさと悲惨さを自分の目で見た人の話はどんな教科書からも学ぶことができないもので

す。原爆を体験した人の多くは高齢になり、体験談を話せる人は年々少なくなっています。生徒たちにとって、細川さんと出会えたこと、聞いたお話は深く心に刻まれたことと思います。

2日目の24日朝、広島駅から新幹線で新大阪に移動し、バスで法隆寺に向かいました。法隆寺ではガイドさんに連れられて、日本最古の木造建築である五重塔、金堂、宝物館や夢殿を見学しました。続く薬師寺では、参与という役職の北川さんがガイドをしてくださいました。北川さんは薬師寺の生き字引とも言われる方で、その方の説明が聞けることはとても幸運でした。三重塔(西塔)や講堂の

薬師三尊像を見たあとで、玄奘三蔵伽藍にも足を伸ばし、玄奘三蔵像や平山郁夫画伯の「大唐西域壁画」についても北川さんは詳しく説明してくれました。法隆寺や薬師寺には、修学旅行生が大勢いて、落ち着いた雰囲気です。じっくり見るができなかったのが残念でしたが、実際に見たものが聖徳太子、釈迦三尊像、エンタシス、玉虫厨子、持統天皇、玄奘三蔵など歴史で学習したことと頭の中で結びつき、興味や関心を高めた生徒もいたようです。2日目の最後は奈良公園の班別見学です。阿修羅像のある興福寺国宝館を見学したあと、班ごとの計画に従って奈良公園を歩きました。鹿と戯れながら、戒壇院、大仏殿の大仏などを見学し集合時刻には全員が無事に戻ってくることができました。

3日目は、4～5人のグループでの京都の一日自主見学です。朝8時に宿舎を出発して、グループごとの計画に従ってバスや電車を使って見学地を回り、夕方5時半までに宿舎に戻ってくる計画です。安全面を考えグループリーダーにスマホが渡されていましたが、出発する生徒たちはわくわくどきどき、嬉しい気持ちと不安な気持ちを顔に表しながら出発していきました。私はたくさんのグループが訪れる金閣寺に行ってみました。2時間余りの間に6つのグループがやってきました。私を見つけると、みんな笑顔で手を振ってきてくれました。知らない土地で知らない大勢の人の中っていると、大人でも不安になるものです。「予定通りにまわっています」「みんな元気です」など自主見学の様子を話してくれ、自分たちで地図を見ながら工夫して、やっとたどり着いた見学地はまた格別なものようです。いくつかのグループはスマホを使って教員や添乗員の藤原さんに助けられたようですが、この日も宿舎への集合時刻をほぼ守り、全員が無事に宿舎に到着することができました。

26日の最終日は、座禅体験をするために朝早く宿舎を出発し、妙心寺に向かいました。妙心寺ではバスを降りると厳しい表情のお坊さんが出迎えてくれました。「私語はつつしむこと」「敷居を踏まないこと」「集中できない人はバスに戻ってもらうこと」など注意事項を説明してくれました。生徒たちはすでに緊張の面持ち。法堂で法話を聞いたあと座禅が始まりました。張り詰めた空気の中で生徒たちは真剣に姿勢を保っていました。座禅の時間は15分間でしたが、私にはあっという間に感じました。生徒たちも日常では経験できない時間に何かを感じられたようです。修学旅行の最終見学地は清水寺でした。清水の舞台、地主神社、音羽の滝などを見学し、湯豆腐の昼食のあと、最後のお土産タイムを取り、帰路につきました。



4日間の修学旅行で私が感じた成果をあげてみると、見学地の学習を十分行ってきたおかげで、広島では戦争や平和について真剣に考えることができ、奈良や京都では日本の文化や歴史について深く学ぶことができたこと、事前の取り組みがしっかりできていたおかげで、修学旅行の目的が意識化されて、集団生活のルールやマナーがほぼ守られ、みんなが楽しく快適に生活することができたこと、それぞれが自分の役割や責任を自覚して進んで行動できていたことなどが挙げられると思います。さらに、3年生全員が大きなけがや病気をせず参加できたこと。不安な天気予報にもかかわらず、傘をほぼ使わずに行動できたことなど、天候や運にも恵まれました。

静岡 SA での解団式の中で、柿島実行委員長も話していましたが、この修学旅行の成功は、3年生全員が心を一つにして取り組んだことが一番の要因ですが、それを支えてくれた家族の方々、旅行業者や宿舎の方など、多くの支えてくれた方々の力があつたことを忘れないでほしいと思います。そして、修学旅行で高めた力を、これからの最高学年としての中学校生活に活かして欲しいと願います。これからの3年生の活躍に益々期待しています。



2年生は「県内めぐり&宿泊学習」

4月23日(火)24日(水)、2年生は県内めぐり&宿泊学習に出かけました。初日は県立美術館を見学したあと、14のグループに分かれて、バスや徒歩で甲府市内の4～6ヶ所の見学地を回りました。愛宕山少年自然の家に宿泊し、2日目は県立科学館、県立博物館、県立考古博物館をバスで移動しながら見学しました。甲府市内の見学地の事前学習やコースづくり、集団生活の組織づくりや係活動、集団生活上のルールやマナーづくりなど、3年生での修学旅行に向けて、貴重な経験になったと思います。